

検討会における検討テーマについて (国民からの提案募集に基づく整理)

第一分科会（空間づくり（トイレ、移動・交通機関等））

【トイレ】

(1) 女性トイレの行列解消 B1(1)

- ① 女性用トイレの行列をなくしてほしい。施設によっては、男性用トイレを臨時の女性用トイレとして活用している場合もあり、工夫できないか。
- ② トイレの個室でスマホをするなど、長居する人がいるので、一定時間が経過した場合はアナウンスを流してはどうか。
- ③ 女性用トイレの個室が少ないと、次の人を待たせてはいけないというプレッシャーを感じてしまう。個室が5個以上あれば心に余裕ができる。
- ④ イベント会場の近くのトイレでは、イベント開催時に、女性用トイレにだけ長蛇の列ができることがある。こうしたトイレでは、イベント会場の収容人数に見合った数の個室を設けてほしい。

(2) 子育て中でも利用しやすいトイレ B1(2)

- ① トイレの個室にオムツ替え用の台が備え付けられている場合があるが、1歳を過ぎると落ちそうになることがあり、危ないと思う。代わりに専用のマットスペースを設け、膝をついてオムツ替えができるようになると便利だと思う。
- ② 同じ個室に、通常の便器と子ども用の便器を併設した個室を設けてほしい。現在、子どものトイレトレーニングを行っているが、非常に時間がかかるし、嫌がることもある。子ども用の便器があれば、喜んで自ら行きたいと言える。
- ③ トイレの近くに授乳室があると嬉しい。授乳しようとしたら、授乳室は別の階だったこともよくある。
- ④ ベビーカーが入る個室があるのに、入口が狭いためにベビーカーが通りにくいトイレがある。
- ⑤ 男性用トイレにもオムツ替え用の台を設置してほしい。

(3) 安全なトイレ B1(3)

- ① 女性用トイレの入口に防犯カメラを設置してはどうか。

- ② 運用には限界があると思うが、防犯用や呼出用のブザーがあれば安心できる。
- ③ 照明は明るい方が安心。一人で暗くて誰もいないトイレに入るのは怖いので、トイレの照明は明るく、かつ、できれば黄色よりも白色の方がよい。
- ④ 盗撮も問題。公共のトイレで個室のドアや壁の修理跡を見るとぞっとする。

(4) 快適なトイレ B1(5)、(8)

- ① 不特定多数が使うトイレにフタはいらないと思う。フタに触るのは極力避けたいし、フタを開ける際に「流れていないかも」と考えるだけでストレスになる。
- ② トイレの各個室にランプを設けて色で空き状況や故障の状況を示してほしい。並んだ挙句、空いた個室のトイレに入ったら水が流れなかったり、ひどく汚れていたりすることがあるが、今さら列に戻ることもできず困ることがある。
- ③ トイレの個室に鏡を設け、用を足しながら身だしなみをチェックしたい。
- ④ トイレの壁にイラストが描かれていれば、トイレのイメージも明るくなる。
- ⑤ 照明が明るいと、良い雰囲気ですぐにトイレに入れると思う。
- ⑥ 清潔が一番だが、冬の時期にはトイレが寒くないことも重要。
- ⑦ 服が便器に付きそうになるので、トイレの個室をもう少し広くしてほしい。
- ⑧ 個室に荷物を掛けるフックを増やしてほしい。また、位置が高過ぎるものがあるので配慮してほしい。
- ⑨ 水洗レバーの位置が分かりやすいと初めての人にとって使いやすい。
- ⑩ 水が流れる音を出す機能（トイレ用擬音装置）があるとありがたい。
- ⑪ 手を乾かすハンドドライヤーを複数設けてほしい。また、ペーパータオルも併せて設置してほしい。
- ⑫ デパートに行くと洋式トイレばかりが満室になっている。これから高齢化も進むので、和式を減らし、お年寄りでも使いやすい洋式を増やした方がよい。
- ⑬ 電車内のトイレは洋式の方が便利。和式が多いが、走行中に揺れることもある。
- ⑭ 重度の左半身麻痺であり、トイレに苦労している。よく転倒するし、立ったまま小用を済ませるのも危険が伴う。しゃがむことができず、和式は完全に使用不可能であり、本当に辛い。
- ⑮ どのトイレでも、最低1か所は和式を設けてほしい。洋式を気持ち悪いと考える人もいる。自分は便座にトイレットペーパーを敷いてから利用しているが、紙の無駄にもなってしまう。

(5) 清潔なトイレ B1 (6)、(7)

- ① 換気扇では空気の入替が十分でない場合もあるので、強力なトイレ用のエアコンがあればよいと思う。
- ② 気になるのは匂いと汚れ。瞬間消臭機能や自動清掃機能があればいいと思う。
- ③ 公共のトイレの手洗い場を全て自動化してほしい。蛇口だと、最後に水を止める際に再び汚れた蛇口に触らなければならない。
- ④ 洋式トイレにはアルコール除菌スプレーを設けてほしい。
- ⑤ やはり綺麗なトイレがよい。公園のトイレは行く気になれないし、怖い。また、温水洗浄便座があれば一番ありがたい。
- ⑥ 掃除後にトイレの床が水浸しになっていることがあるが、もっと乾燥しているとよい。
- ⑦ 綺麗にしたいトイレや、掃除をしやすいトイレがあればいい。最近はおしゃれなトイレも作られており、汚さないように使おうという気になる。また、汚したときのために、掃除用具が手に届くところにあればいいと思う。
- ⑧ 「きれいにお使いください」よりも「いつもきれいにお使い頂きありがとうございます」と書かれる方が印象がいい。
- ⑨ トイレトペーパーを中途半端に使い、伸ばしたまま出たり汚い切れ目を残して出たりする人がいる。もう少し次の人に配慮してほしい。
- ⑩ 外国に、公衆トイレの入口にゲートがあり、お金を投入すれば中に入れるシステムの有料トイレがあり、綺麗だった。無人で清掃費を徴収することができるので、綺麗なトイレを求めるのであれば一考に値すると思う。

(6) 災害に強いトイレ B1 (4)

- ① 災害時に断水、停電しても使えたり、地震でドアが歪んでも出られるトイレがあればよいと思う。
- ② 震災時に、一避難所あたりのトイレの数が圧倒的に不足していて、衛生状態も最悪だった。災害時にすぐに使える仮設トイレをもっと充実してほしい。

【移動】

(1) バリアフリー化の促進 (A1 (1))

- ① 電車の乗り換えなどでのエレベーターが完備されていると、子連れや高齢者にとって移動がスムーズである。
- ② 介護カーが必要なお年寄りやベビーカーを利用する方は駅の階段に苦労している。昇降用のエスカレーターを駅に設置して欲しい。
- ③ バリアフリーが進むと、車椅子を使用している人だけではなく、ベビーカー

を押しているママさんにもみんなにも良い。

- ④ 日本のバスは床が高いため、高齢者や子どもには不便である。位置が高くなるため揺れの不快感が高く、改良すべき。
- ⑤ 脚の悪い人はバスの階段が一段一段高過ぎるため、身体にとっても負担がかかる。欧州のように、バス停自体がスロープになっていてバスのステップの高さまでであると良い。

(2) ベビーカーを利用しやすい環境 A1 (2)、(3)

- ① ベビーカー、子連れ、盲導犬を連れた方の専用車両があっても良い。
- ② 鉄道会社には、子連れ優先指定席、グリーン車、航空会社には、子連れ優先便などを設定してもらってはどうか。子連れでない人達も利用可能だけど、子どもがいることを了解した上での利用としてもらうもの。
- ③ 電車内にキッズスペースがあると気を遣わなくてよい。
- ④ 小さい子連れのお母さんは外出も一苦労。公共機関、施設等にベビーカーの無料レンタルあるともっと気軽に外出できるのではないか。

(3) その他、移動における子連れへの配慮（授乳室マップ等） A1 (4)

- ① 授乳室やトイレの場所などを示したマップがあればよい。
- ② 乳幼児を抱えている方、ベビーカーを持っている方など、助けが必要だったりする人のために、補助要員、案内要員にはとっさの救助知識を教育すると良い。
- ③ ショッピングモールなどで、どこかに預けられて最後にコンパクトにまとめて受け取れるカウンターや、自宅配送のサービスがあれば便利。街中にも、荷物を預けられるサービスセンターがあると良い。荷物が多い時は、荷物預かり所が懐かしい。コインボックスには全部荷物入らない。また、荷物の出し入れをすれば、お金かかる。荷物預かり所が復活すると良い。

【公園の安心・安全性】

(1) 安全・安心な公園 ～管理人～ D1 (1)

- ① 「公園安全管理人」という資格制度を創設してはどうか。護身術やリーダーシップ、傾聴カウンセリング能力、救命知識等の習得を求め、各公園に配置する。高齢者の雇用創出にもつながると思う。
- ② シルバー人材センターを活用して「公園の先生」を置き、子どもに竹馬や缶けり、お手玉等を教えてはどうか。
- ③ 都市部の公園以外は、雑草だらけで危なく、暗く、トイレが汚い。ただの危

ない空間。シルバー人材センター等を通じて管理してもらえば、安全で綺麗な公園になるのではないかな。

- ④ 公園内に交番を置き、お巡りさんと公園利用者が身近に触れ合える公園を設けてはどうか。一人暮らしのお年寄りや一人で子育てする奥さんも、お巡りさんとの話を通じて地域との接点を感じられるのではないかな。

(2) 安全・安心な公園 ～設備等～ D1(2)

- ① 夜も明るいよう十分な街灯を設けてほしい。
- ② 防犯上、公園の出入口は複数設けたほうがよい。
- ③ ある程度の広さがあって、子どもが遊ぶ場所が見渡せるほうがよい。
- ④ 子どもがケガせず安全に使える遊具にしてほしい。
- ⑤ 砂場での猫の排泄物による破傷風への感染のおそれをおそれなくしてほしい。
- ⑥ 災害時に広域避難所になるような公園があればよい。
- ⑦ 公園にAEDや救急箱を備え付け、応急措置ができるようにしてはどうか。

第二分科会（ネットワーク（情報提供、支え合い等））

【問題を抱える女性への情報提供】

(1) 女性が多く集まる「場所」における情報提供 G1(3)、H1(2)

- ① スーパーやコンビニ、郵便局、銀行、病院など、普段訪れる場所で情報を発信してはどうか。客の年齢層や属性もある程度分かるので、ターゲットも絞った周知が可能ではないか。
- ② 産婦人科や小児科の待合室に、保育園に関する情報が掲示してあれば便利のように、関係する人が絶対に来る場所で、情報を発信すべきだと思う。
- ③ 随分以前から女性用トイレには、DV で悩んでいる方の駆け込み連絡先の名刺サイズの物が置いてあるのは良く見かける。取りやすく、しまいやすくして素晴らしいアイデアである。DV 相手の男と一緒にの時でも女性用トイレには入って来ない。この一枚の小さな紙が困って悩んでいる人には助けを求める大きなきっかけになる。
- ④ トイレは女性だけ、または男性だけに伝えたい情報の提供スペースとしてもっと活用すべき。
- ⑤ 電車の女性専用車両に広告を出す。
- ⑥ 提供したい情報を載せたティッシュを女性に人気のある駅の前や美容院が多い街などで配る。
- ⑦ ネイルサロンやコスメショップなどでチラシを置いたり、レシートに印字したりする。
- ⑧ 美容室は女性の社交場としては非常に歴史も古く、そこで提供される情報の質も極めて更新頻度が高い。顧客と顧客がなんとなく世間を始められる雰囲気や場の設定をすることや、ママ美容師さんに勉強してもらい子育て支援の情報収集や女性の自立支援になるような情報収集がサロンでできると良い。

(2) 女性がよく使う「もの」を使った情報提供 H1(1)、(3)

- ① 生理用品等女性が使用する日用雑貨に広告を掲載するとよい。
- ② 生理用品や化粧品など女性が購入する商品と共にレジなどで一緒に渡すのがよい。
- ② 女性には不可欠な生活用品のパッケージなどに、知ってほしい情報にアクセスできるアドレスやQRコードなどの情報を載せたら良い。
- ④ 使うもの、買うものに情報提供するのも良い。買う場所、買うコーナーに情報があると目が行く。
- ⑤ 女性はお菓子やスイーツのパッケージで、期間限定で情報提供してもよい。

- ⑥ 食品買い物比率は男性よりも格段に高いので、食品スーパーの袋詰め台に情報を貼り付けた無料頒布品を置く。または、スーパーの袋に入れてもよい。
- ⑦ 子どもがいれば、子どもから渡してもらうようなものは確実に見るので、学校や保育園、幼稚園から配布物は、かなり有効である。
- ⑧ 女性向けのみの町の情報誌（子育て支援、女性向け DV シェルター、公的機関の女性センターなど）を作って、重ねて化粧室に置いておいてはどうか。
- ⑨ 旬の女優やモデルを使ってブログや雑誌で普及を促すとよい。
- ⑩ 女性向けの雑誌は種類が増えており、情報源として大事である。特に年齢層を絞り込んだ情報を発信する場合にはよい。

(3) 対面等による「ひと」からの情報提供 G1 (3)、(4)

- ① 地方の集落等においては、新聞配達員、郵便配達員、民生委員、介護士、福祉団体、宅配便の配達員などに情報提供を担ってもらうのはどうか。
- ② 町内会の回覧板が有効ではないか。パソコンや携帯から情報を得られる若者と異なり、お年寄りには情報を得る手段が少ないと思う。
- ③ 町内の組織など、ローカルな組織をもっと活用すればいいのではないか。
- ④ 自治体職員による情報発信をもっと進めるべき。多くの自治体職員は情報発信に不慣れで、中には余所者扱いするような方もいるが、自治体の取組やお勧めのスポット、お得なサービス、危険なエリア等についてもっと発信してほしい。
- ⑤ ひとりひとりが自分の体験談を発表する場があればいい。メンタルヘルスなど、専門家から説明されるよりも、実際に経験した本人の話を伺う方が説得力があるが、そうした機会が乏しいため、想像が一人歩きして偏見につながると思う。
- ⑥ 年齢・性別関係なく、口コミが最も信頼性が高く、広がる領域・速度が早いのではないか。どれだけ正確かつ分かりやすく「口コミによる情報提供」ができるかがポイントになると思う。
- ⑦ 人と人との絆が薄くなったことが、情報が届かない原因の一つになっているのでは。自分も人から問われれば答えるが、問われなければわざわざ答えない。

(4) インターネットを使った情報提供 G1 (2)、H1 (3)

- ① 全国の公的な支援をまとめているサイトがあればいいと思う。子育て支援などは自分で情報を調べようとするかもしれないが、お年寄りのリフォーム支援などはそもそも制度があることすら知らずに終わる人も多いのではないか。
- ② 情報不足で困っている人は、利用者同士で質問や回答を行うサイトを閲覧す

ることが多い。そうしたサイトに公共機関ホームページへのリンクを貼り、そこで「最寄りの役所に来て相談してください」などと呼びかけを行うとよいのでは。

- ③ 新聞やテレビでの情報収集は受動的にならざるを得ないし、インターネットでは能動的に情報収集できるが時間と労力を要する。自分の好みに合った情報を自動で配信してくれるアプリがあると便利。
- ④ 経済的に余裕がなく、情報機器を持っていない層のために、「公的なネットカフェ」のようなものを設けてはどうか。パソコンを持っていない方でも、情報に接することができるようにすることが重要。
- ⑤ 女性に多く発症する難病になったことなど、自分は、経験をブログという手段で伝えている。
- ⑥ パソコン、携帯からの情報や友達などから情報色々入ってくる。
- ⑦ 大手検索サイトで、上位にヒットするようにしておくのも良い。
- ⑧ ブロガーやTwitterユーザーに委託して、情報を拡散してもらうと共に、インターネット広告やテレビにコマーシャルに掲載する

(5) その他の手段による情報提供 G1 (5)

- ① 結婚で姓が変わった際など、節目の時に必要な情報を冊子にまとめて配布してはどうか。仕事関係の免許について、姓の変更手続を失念してしまったことがあるが、言われなければそのような手続が必要だとは分からない。
- ② 若者とお年寄りは情報の入手先や、持っている情報の内容が異なる。両者の情報をうまく共有することができれば、必要な方に情報が届くことになると思う。
- ③ 高齢者、一人暮らし、母子・父子家庭等に訪問して、困っていることを聞く御用聞きのようなものがあればよいと思う。
- ④ 簡単に情報を入手できる機能を、毎日利用しているデジタル家電に搭載するとよいのではと思う。

(6) 効果的な情報の伝え方 G1 (6)

- ① 文章は短く、かつ、写真や図、イラスト等を利用するのが効果的だと思う。
- ② 相手に見合った量の情報を提供するのが大切。相手が対応可能な範囲を超えた情報を提供しても行動に移してもらえない。
- ③ 回情報発信しただけで満足するのではなく、何回も繰り返し発信していかなければ、実際には伝わっていないこともある。
- ④ 駅構内の案内マークが大きく分かりやすい駅があるが、非常に便利だった。

【支え合い】

(1) 多様な働き方・休暇制度 E1(1)

- ① 子育てしながらのフルタイム勤務では急な残業も難しい。それぞれの家庭環境に応じて勤務しやすいよう、様々な勤務形態を設けるなどの取組を進めてほしい。(短時間勤務、在宅勤務等)
- ② 産休・育休中に、会社や社会と完全に隔離されるのは好ましくない。2か月に一度でも子連れで会社に来る機会を設けたり、自宅でメールが読めるようにできるとよいと思う。
- ③ 育休中に派遣社員を代替要員として配置するのではなく、最初から自社にミニ派遣部門を作っておいてはどうか。
- ④ P T Aや学校教育活動に参加する際の休暇があればいいと思う。

(2) 子育て・保育の助け合い C1(2)、E1(2)、F1(2)

- ① 同時期に出産した方が集まって、保育士とも連携しつつ、ローテーションで子どもを見る仕組みがあればよい。地域の共同体づくりにもつながる。
- ② 既に子育てを経験した方が、保育園のお迎え等を行うサポート制度を導入している地域がある。「保育ママ」とは異なり、預かるのはごく短時間であり、預ける側も安心感もあるので、もっと広がってほしい。
- ③ ベビーシッターを国家資格化し、国がしっかりと育成・管理を行い、安価で利用できるようにしてはどうか。
- ④ 託児所とカフェが1つになった「託児所カフェ」を設けてはどうか。子育てしながら働ける一つのビジネスモデルとなり得るのではないかな。
- ⑤ 保育園が不足しているが、例えば、老人ホーム等でお年寄りと子どもが一緒に生活できないだろうか。子どもはお年寄りから勉強や遊びを教わり、お年寄りも子どもから多くの刺激を受けたりするなど、様々なメリットがあるので。
- ⑥ 企業に託児所を設け、その運営を学生ボランティアに依頼してはどうか。就職活動の際に優遇すれば、学生にとってもインセンティブになるのではないかな。
- ⑦ 夜まで開園している保育園や駅近の送迎付き学童保育があればありがたい。
- ⑧ 小児科のある病院に託児施設を併設するなど、具合が悪くなった子どもを一時的に看病したり、世話をしてくれる施設があればいい。
- ⑨ 公共の図書館は文化の発進基地でありながら、地域コミュニティの場であることも重要である。漫画や絵本などがもっとあっても良い。それをきっかけに地域の子供たちが集まり、親同士の交流が生まれ、図書館を利用する他の

人々との交流も広がる。

- ⑩ 図書館の中に広いコミュニティスペースがあったり、図書館と公園を併設したりするのも良い。
- ⑪ 様々な人が集まる公園を利用して、地域コミュニティをもっと大切にし、人と人との触れあいをしていくことが、大切である。
- ⑫ 特に都心部では、隣の人との交流が少ない場合もある。ただ、震災時のように地域の人との助け合いの気持ちが多くの人の命を救いお互いを励ましあっている。これが日本の伝統の文化である。もっと助け合いの精神が育めるような町づくりをしていきたい。
- ⑬ 男が育休取得したいと申し出ることが難しい雰囲気が問題である。
- ⑭ いっしょに育児するためには、周りの理解力と思いやり、夫婦の信頼関係が大事である。
- ⑮ 育児は、夫婦間だけでするものではなく、まわりのご近所の協力も借りてするものである。困ったら遠慮なく SOS を出す地域社会であるべき。
- ⑯ 例えば公民館に、子育て経験者や保育士等の専門家が常に誰かいてくれば人も集まるだろう、地域の新しいコミュニティが生まれる。

(3) 子育てに対する理解 E1 (3)

- ① 家事の代行サービスをもっと気軽に受けられたり、子育て中の世帯は割引でサービスが受けられる制度があれば助かると思う。
- ② 子育てで職歴に空白が生じた人を、正社員として雇う企業が増えたらいい。子育てが理由であれば、空白がある職歴も評価されるべき。
- ③ 企業は、妊娠したから戦力にしないとか干すといったことはやめるべき。
- ④ 学校やPTAの行事があまりに多過ぎて、共働きでは到底対応できない。
- ⑤ 一人で仕事、子育て、家事の全てをやろうとすると、いつかパンクしてしまうと思う。養育費の確保や、託児所の受入枠や受入時間の増加で、シングルマザーでも睡眠時間が確保できると思う。
- ⑥ 子育ては夫のサポートが重要。そのためには自宅と職場が近いことも大事。

第三分科会（活動しやすくする工夫）

【女性の活動の支援】

(1) 女性の才能を埋もれさせない F1(4)

- ① 外に出たくても出られない専業主婦はのんびり楽しんでいるわけではない。社会に出にくくなり、才能があるのにもったいない人もいる。
- ② 埋もれてしまっている女性の高い能力を発掘するのが企業側のすべきことで、才能を生かしたい、働きたいと思う母親は自分のスキルを企業にアピールすること。
- ③ 独身の時は自分の好きな仕事を自分の都合で選べた。働くことも、現代は女性にとっては自分らしくあることで、いきいきしているからこそ、子育ても充実してやっていける。
- ④ 女性が働くことを重視しているのであれば、経験を生かせる保育士等にする道もある。
- ⑤ パティシエ、元保育士、保健師等をスタッフとし、ベビーカーへの配慮等もあるおしゃれなママカフェを例えば半官半民で運営する等あってもよいのでは。

(2) 活動しやすくするようなツール・サービス

A1(4) 第一再掲、E1(2) 第二再掲、C1(1)

- ① 授乳室やトイレの場所などを示したマップがあればよい。
- ② 乳幼児を抱えている方、ベビーカーを持っている方など、助けが必要だったりする人のために、補助要員、案内要員にはとっさの救助知識を教育すると良い。
- ③ ショッピングモールなどで、どこかに預けられて最後にコンパクトにまとめて受け取れるカウンターや、自宅配送のサービスがあれば便利。街中にも、荷物を預けられるサービスセンターがあると良い。荷物が多い時は、荷物預かり所が懐かしい。コインボックスには全部荷物入らない。また、荷物の出し入れをすれば、お金かかる。荷物預かり所が復活すると良い。
- ④ 同時期に出産した方が集まって、保育士とも連携しつつ、ローテーションで子どもを見る仕組みがあればよい。地域の共同体づくりにもつながる。
- ⑤ 既に子育てを経験した方が、保育園のお迎え等を行うサポート制度を導入している地域がある。「保育ママ」とは異なり、預かるのはごく短時間であり、預ける側も安心感もあるので、もっと広がってほしい。
- ⑥ 託児所とカフェが1つになった「託児所カフェ」を設けてはどうか。子育て

しながら働ける一つのビジネスモデルとなり得るのではないか。

- ⑦ 保育園が不足しているが、例えば、老人ホーム等でお年寄りと子どもが一緒に生活できないだろうか。子どもはお年寄りから勉強や遊びを教わり、お年寄りも子どもから多くの刺激を受けたりするなど、様々なメリットがあるのでは。
- ⑧ 子育て支援として、子供を学童から習い事に連れて行きたいが対応できない時代行してもらえるサービスが良い。身内も近くに居ないという方には、少しでもお金を払いつつ出来る限り自分も動くというシステムで成り立っていた。

(3) ワークスタイル E1(1) **第二再掲**、C1(1)、F1(1)

- ① もっと男性の仕事量、負担を減らした上で、減った負担で男性に育児や家事をする機会を与えていくべき。
- ② 父親が育児に参加するためには、残業をなくす、休日出勤をなくす、有給は必ず使う、の3点をクリア出来れば変わると思う。
- ③ 私は育児休業をとるつもりである。子どもと一緒に過ごす時間が増えたら、きっと子どもが真っ直ぐ育つ環境も作りやすい。自分が率先して育児休業を取ることで、周りのお父さんたちにも良い刺激を与えたい。
- ④ 父親は仕事をしている以上、関わっている時間がお母さんと比べると短い。このため、父親と二人きりにすると乳幼児が不安がるのでイクメンできないのも原因のひとつである。
- ⑤ 子育てしながらのフルタイム勤務では急な残業も難しい。それぞれの家庭環境に応じて勤務しやすいよう、様々な勤務形態を設けるなどの取組を進めてほしい。(短時間勤務、在宅勤務等)
- ⑥ 産休・育休中に、会社や社会と完全に隔離されるのは好ましくない。2か月に一度でも子連れで会社に来る機会を設けたり、自宅でメールが読めるようできるとよいと思う。
- ⑦ 育休中に派遣社員を代替要員として配置するのではなく、最初から自社にミニ派遣部門を作っておいてはどうか。
- ⑧ P T Aや学校教育活動に参加する際の休暇があればいいと思う。
- ⑨ 公共機関の入札時に、女性の活躍状況、ワークライフバランス等を優遇する仕組みにしてはどうか。

【海外発信】

(1) 文化、精神 I1(1)

- ① 以下のものを伝えたい。

- ・おもてなしの精神
- ・思いやり、誠実さ、優しさ
- ・和の精神
- ・おたがいさま
- ・心遣い
- ・自然を大切にする精神
- ・公共の場所を使ったら綺麗にする文化
- ・トイレの綺麗さ
- ・時間・ルールを守る文化
- ・秩序
- ・能、狂言、歌舞伎、雅楽
- ・茶道、華道、武道
- ・日本食、和食
- ・着物
- ・神社仏閣
- ・昔話
- ・侘びと寂

② 日本文化のことを聞かれても、よく知らないので翻訳アプリでも伝えられない。

(2) 製品、コンテンツ I1(2)

① 以下のものを伝えたい。

- ・温水洗浄便座
- ・自動販売機
- ・こたつ
- ・工芸品
- ・日本のおいしい食品
- ・おにぎり
- ・IH炊飯器
- ・邦画
- ・音楽
- ・アニメ
- ・ゲーム

(3) 平和、治安 I1(3)

① 以下のものを伝えたい。

- ・平和
- ・治安の良さ
- ・信仰の自由、人権尊重

(4) 景観等 I1(4)

① 以下のものを伝えたい。

- ・四季折々の日本の景色
- ・富士山
- ・京都
- ・神社仏閣
- ・年中行事
- ・屋台

(注) 各項目の見出しに掲げた記号 (B1(1)等) は、国民からの提案募集の「主な提案事項」の記号に対応している。